



1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1191400058		
法人名	株式会社ウィズネット		
事業所名	グループホームみんなの家・蕨		
所在地	埼玉県蕨市錦町6-9-23		
自己評価作成日	令和1年10月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 ケアシステムズ		
所在地	東京都千代田区麹町1-5-4-712		
訪問調査日	令和1年10月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様お一人お一人に寄り添い、些細な状態の変化にも気づけるように取り組んでおります。職員の定着率も高いため、その点把握しやすくなっております。医療との連携も取れており、体調不良の際もいち早く対応する事が出来ております。身体機能維持の為、毎日2回～3回「アルソック体操」「ノーア体操」「口腔体操」を行っており、月に1回健康増進課の講師が施設を訪問し体操を行っています。一年を通して入居者様が楽しく生活して頂けるように「お散歩」「お誕生日会」「ひな祭り」などの行事のほか、ボランティアさんによる「音楽コンサート」「フラダンス」などのレクリエーションの充実も図っております。毎日、入居者様が笑顔で過ごせるように、職員一同取り組んでおります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

タイトな体制であることから、日常生活に関わる各種の個別支援を最優先させ、利用者一人ひとりがその人らしく生活できるように取り組んでいる。起床就寝、食事摂取、排泄、入浴、家族や外部の医療機関との連携による医療的な支援などは、適切に実施されていることがうかがえる。今回行った家族アンケートについても、各設問ともに高い満足度が得られている。さらに、ケアマネジメント、リスクマネジメントを強化する必要性についても認識していることがうかがえる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ご利用様が笑顔でお過ごし頂けるよう、理念の共有、実践に努めている。	事業所理念を職員室に掲示して職員がいつでも振り返る事ができるようにしており、申し送り時にも掲示を確認しあっている。職員会議でも事業所理念に沿ったケアが行えているか確認するようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流は図れていない。	定期的にボランティアが来訪したり、社協のいきいきネットワークにも参加したりして交流の機会を図っている。町会からの行事案内もあるが、参加ができていないことを課題としている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々にむけた発信が出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の出席率は低いが、そこでの意見交換等は、サービス向上に生かしている。	定期的に運営推進会議を開催し、家族、市役所担当課、地域包括の参加が議事録で確認できている。毎回の参加ではないことから、参加者層を広げ、事業所運営の議題作りに取り組むことを期待したい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃より、ご利用者様については連絡、報告を行い、協力関係は築けていると思います。	市役所担当課は運営推進会議に参加しており、事業所の取り組みに意見をもらったり電話やメールでもやり取りを行うなど、協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を一月に一度開催。	身体拘束委員会が提案した勉強会を月1回行なっている。また年2回法人の資料を使い、職員に周知する研修を行うとともに、日々の申し送りでも職員に確認をして身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会一月に一度開催し、防止に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	会社で行う研修に参加する。ミーティングで話し合う機会を設ける。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約・改定等が行われた際は、納得がいくまで説明させて頂き、心配の内容配慮させて頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様のご意見、ご要望は真摯に受け止め、運営に反映させて頂いている。	家族会の案内を送り、欠席の場合でも意見を聞けるように取り組んでいる。家族が面会に来た場合には意見や要望等を申し送りノートに記入し、職員全員が確認している。	家族会に欠席した家族にむけては、議事録を送付することも検討されたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や日常で、職員の意見、提案は常に聞かせて頂いている。本部に報告を行い連携、反映している。	職員会議や個人面談で職員一人ひとりの意見を聞けるようにしている。日常的にも職員から希望があれば、時間をつくり話を聞くように取り組んでいる。必要に応じて法人本部に伝え運営に反映できるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則、労働基準法の則り行われている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社で行われる研修に参加する。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の事業所での運営推進会議に参加させて頂く。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の実調に時間をかけ、困っている事、これから行いたいことなど細かく聞き、どのように支援させて頂くか、心配の無いよう説明させて頂いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の実調の際、ご家族様の困りごと、心配ごとを把握し、解消できるよう取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何が必要か要望を聞き、支援できるよう取り組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご自分で出来無い事を支援させて頂き、良好な関係を築けるよう行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様とも常に連携を取り、良好な関係を築ける様に行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様以外にも、面会に来てくださる方と、職員との関係が築けよう支援している。	家族とお墓参りや外出に出かけたり、知人や友人の面会も随時受け付けている。携帯電話で話しをしたり、手紙のやり取りでは職員が利用者とポストへ投函しに行くなど馴染みの途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様の性格を把握したうえで、他の利用者との関係が築けるよう、支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、ご家族様からの相談には支援させて頂けるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様の意向踏まえたくうえで、ご家族様とも話し合い、出来るだけ実現に向け、取り組んでいる。	利用開始時のアセスメントをもとに、日々の関わりの中から意向や要望、思いなどを把握して支援に反映させるようにしている。聞き取りの困難な入居者には生活歴や家族からの意見を反映している。	日常的な関わりの中で把握した意向や要望は、都度アセスメントに加筆し、職員間の情報共有に繋がられたい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前調査により、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態の、心身の変化等、職員が細かく観察、記録、申し送りを行い、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様の変化に伴いカンファレンスを行い、ご利用者様、ご家族様へ意向をお伺いし介護計画へ反映させる。	法人共通のルールに沿って、3か月毎にモニタリングを実施しており、ケアプランの達成度や満足度を把握する仕組みが整っている。また、それらをもとに利用者・家族の意向に沿った介護計画を作成している。	ケアプランについては利用者や家族の主訴を詳しく聞き取ることが必要とされる。また、ケース記録は管理者が定期的に確認(必要書類への押印)することも必要とされる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態、ケアの実践を記録し、職員間で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズや状況の変化に応じて、対応。支援できるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行政サービスのご案内を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様のご要望に答えられるよう相談にのり、支援させて頂いています。	内科・歯科の訪問診療をはじめ、訪問看護師・歯科衛生士による健康管理も週1回行われ健康管理に取り組んでいる。また、医療職とは「医療連携看護師連絡記録」などで関係者が連携を図るようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状態を細かく医療連携に報告し、適切な看護が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中はお見舞いに行かせて頂き、ご家族様・医師・看護師さん方から状況を聞かせて頂き、本部へ報告を行い、早期退院できるよう努めた。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアについては、ご家族様・医療連携との話し合いで行われる。重度化の場合、適切な医療行為が受けられる施設のご案内を行う。	利用開始時は重度化した際や終末期の対応を説明し、同意を得ることにしている。状態が変化した際には再度方針を家族に伝え同意を得て、医療と連携しながらケアに取り組んでいる。	利用者の高齢化によって様々な重度化が想定される。さらに職員のスキルアップに向けて職員研修や勉強会を充実させることが望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応はミーティング、マニュアルを活用、事故発生時は、連絡網を活用し速やかに連絡・報告を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災・水害訓練実施。消防機器点検時、消防器具の使用方法を教わっている。	年2回の避難訓練をはじめ、防火点検表による防災用具の点検、市の災害マップの掲示などによって、災害に備えている。また、水や食料品なども備蓄している。	災害発生時に円滑に避難が実施できるように、各種の安全備品類などをさらに充実させることが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人の尊厳を大切に、声かけ、対応にあ たっている。	入浴の際にはできる限り同性介助に取り組 んだり、トイレ誘導を行う際には本人にしか分 からないように声かけに配慮したりしている。 尊厳の尊重に配慮したケアに取り組んでいる ことがうかがえる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自 己決定できるように働きかけている	ほんにんの意志を出来るだけ尊重出来る 様、支援させて頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人のペースに合わせた対応が出来る 様、職員間で情報共有し、ADLを低下させな い取り組みを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように 支援している	ご本人様の趣味・嗜好を考慮し、支援させて 頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み や力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備 や食事、片付けをしている	定期的に行っている「手作りおやつ」のお手 伝いをお願いしたり、後片付けのお手伝い を行って頂くなどにより、食事の楽しみをもつ て頂く。	日常的には下膳や片付け、おやつ作りなどを 状態に応じて職員と一緒にすることにしてい る。また、昼食時には利用者同士が和やかな 雰囲気の中で喫食できるような席作りに配慮 されていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に 応じた支援をしている	毎食の量は記録を行い、量が少ない、どう しても召し上がれない物がある場合等は必要 な栄養が取れるよう対応させて頂く。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている	1人で出来ない人には職員が必ずケアを行 なう。歯科医師と歯科衛生士が定期受診を 実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来無い所だけを介助させて頂き、残存能力を生かして頂いている。尿意便意の無い方には、定時誘導、清潔保持に努めている。	排泄チェック表によって利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけしながら誘導をしている。できる限りトイレで自然な排泄をしてもらえるように支援している。排便対策として水分摂取にも配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を活用し排便間隔の把握に努める。場合によっては、医師に報告お薬の処方を検討して頂く。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	できる限りご利用者様の望む時間に入って頂けるよう取り組んでいる。	週2回の入浴支援を原則として実施しており、入浴チェック表によって把握している。体調不良や拒否などが見受けられた際には、日時などを変更して入浴支援に取り組んでいる。	入浴後などには爪切りなどの整容支援がなされているが、「いつ」「誰が」行ったかを分かりやすく記録することが望まれる。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の身体状況、希望をふまえた支援をさせて頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1人1人飲まれている薬は、薬情確認するようにしている。配役は必ず職員二人体制で行う。変化があった場合は、速やかに医師に報告、指示を仰ぐ。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの趣味、ADLにあわせたレク等が出来る様に見極め、支援させて頂いてます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員の数、ご利用者様の状態等により、希望どおりとは出来ないところがあるが、気候によって出来る限り外出できるよう行っている。	天候や体調を確認しながら、不定期ではあるが散歩を実施している。希望があれば、個別に近隣への外出支援を行っている。家族の協力のもとで、遠出も可能となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在お金は所持して頂いておりません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を保持されているご利用者様に関しては、お好きな時にお電話されています。ご家族様の了承の元、お友達への手紙を投函させて頂いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔を心がけ、整理整頓、生活しやすいよう配しております。日々のご様子のお写真や、壁紙等で季節感を出し楽しく過ごして頂けるよう支援させて頂いています。	各階の共有スペースは明るく清潔な環境が維持されている。また、季節が感じられるような壁面装飾にも取り組んでおり、利用者が楽しめる空間になっていることがうかがえる。	共有トイレについても清掃・消臭が行き届き適切な排泄環境に取り組んでいるが、棚にトイレットペーパーが無造作に置かれている。落下対策を講じる必要があるとされる。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者様が穏やかに過せるように、座席を工夫しております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際、ご本人様の思い入れのある物をお持ち頂き、居室で使用して頂く事により、スムーズにホームでの生活が出来る様、支援させて頂いております。	居室作りは安全への配慮をもとに利用者や家族に一任しており、自宅で使用していたものを持ってきてもらい、安心して過ごせるように努めている。居室は居心地のよい空間となっているように見受けられた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、居室は名前を貼る等分かり易い工夫を行っている。歩行しやすい同線の確保を行っている。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		職員への研修	会社で行われている様々な研修へ参加出来るようにする。	職員配置の充実を図り、研修に参加しやすい勤務状況を作る。	12ヶ月
2		介護計画・モニタリング	利用者様や家族の主訴、意向をしっかりと聞き取る。	利用者様や家族の主訴、意向をしっかりと聞いたうえで、実行し記録をきちんと行い押印する。	6ヶ月
3		家族会に参加して頂く。	家族会に参加して頂けるご家族様が増えて下さる。	毎月送付している「一言通信」により、施設でのご様子や取り組みをご覧になって頂き、家族会への参加がしやすく、意見交換が行いやすい状況を作っていく。参加出来なかったご家族様へは、会議録を送付する。	6ヶ月
4		災害発生時の対応	災害発生時、ご利用者様の安全が確保出来るようにする。	年に2回の消防訓練だけではなく、日々職員間で災害発生時の対応を話し合い、ご利用者様の安全が確保できるよう、避難経路、備蓄などしっかりと備える。	6ヶ月
5		共用空間づくり	ご利用者様が快適に過ごせる空間を作る。	衛生環境を整える、安全対策を行う。危険個所を改善する。	6ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。